

平生港運が桜ヶ丘高野球部に 米100キ。寄贈

周南



河本社長(左)と宮里主将

夏の大会へエール

平生町の平生港運(河本康治社長)が22日、山口県桜ヶ丘高(安洋校長)の硬式野球部に地元産米100キを寄贈した。夏の全国高校野球選手権山口大会(17日)に津田恒実メモ会を前に、選手たちの体づくりを食の面から支援しようという企画したもの。

同社の河本社長は同校の卒業生。地元農家から仕入れた米を自社で精米して販売しており、日頃から多くの米を消費する野球部員たちを応援したいとの思いで寄贈を決めた。

この日の贈呈式では、河本社長から主将の宮里叶琉選手(3年)へ米が手渡され、宮里選手

は「このお米で力をつけたい」と思い、悔いのない夏に仕上げたいとエールを送った。

また、同校の松野木豊学園長(67)は、食へ盛り込みたい。選手たちの力になると感謝した。

平生港運はこれまでにも平生町や柳井市の小中学校卒業生、新人に地元産米を贈る活動を続けており、地域貢献に取り組んでいる。

河本社長は「卒業生として母校を応援したいという思いがあった。ぜひ甲子園を目指して頑張ってもらいたい」と期待を寄せた。



寄贈された100キの米

寄贈された米は野球部の寮の食堂で活用され、選手たちの体力づくりに役立てられる。